

指定校番号	28088	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	福山市立神辺中学校	校長	金田 耕治	生徒指導主事	山口 義哉
-----	-----------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『いじめSTOP集会』

取組のねらい キーワード『いじめカッコ悪い』

・“いじめ”について改めて考えるきっかけを与え、「いじめは人間として絶対に許されない」という意識を一人一人の生徒に徹底させる。

取組の具体的内容 キーワード『傍観者にならない』

- ・ 7月，1年生学活の授業で「こんな時あなたは，どうする？」（LINE上でA君がB君に「C君について悪口を書こう」と言われた時のB君の対処方法）についてロールプレイする。 → 実際に起こりうることを実感させる。
- ・ 7月，平和集会で生徒会がプレゼンテーションを行う。従来行ってきた戦争や核など生徒にとって大きいテーマから身近なことへ落とし込むことにより、「いじめ」について考える。



私の行動宣言

- ①NHK「わたしの行動宣言」に参加し，全校生徒がいじめを減らすために自分にできることを宣言文としてNHKに送付する。
- ②NHKのホームページにUPされる。
- ③校内に掲示する。
- ④10月にNHKから取材依頼があり，取組を取材してもらう。
- ⑤10月29日NHKいじめをノックアウトスペシャルで放送される。



いじめSTOP集会

- ①8月，全校登校日に「いじめSTOP集会」を実施する。



- ②いじめの構図について学ぶ。



- ③「わたしの行動宣言」校内優秀作品を紹介する。



生徒会交流

- ①7月，夏休みに本校と他校の生徒会が取組を交流し，見聞を広め，深める。

【生徒会の感想】
「(他校の)取組がすごく驚いた。自分たちでも考えやってみたい。」
「やる気がみなぎってきた。」



夏休みの宿題で生徒の人権作文

～中略～ 傍観者とは、事件に直接関わろうとせず、見て見ぬふりをしている人のことです。傍観者の多くは、自分が行動すると、自分までその事件に巻き込まれてしまうことを恐れています。なので、何も行動に起こすことができません。私は、この行動したくてもできない傍観者に、行動を起こさせることが大切だと思います。

私がこのような考えを持つようになったのは、夏休みに行われたいじめSTOP集会の時です。集会では、生徒会本部の方々がいじめについて話してくれました。その中で出てきた言葉が、「傍観者」です。私はそこで初めて傍観者という言葉とその意味を知りました。そして、傍観者の行動の大切さに気付きました。

～中略～ とはいっても実際、私たちの生活の中で、傍観者になってしまっている人はたくさんいます。自分自身も傍観者になっている時があります。例えば授業中、私語が多くてざわざわしていても先生に注意されるまで誰も声をかけません。服装などのルールを破っている人を見ても、注意はせず見逃してしまいます。日常生活のちょっとした場面で、自分や周りの人が、傍観者になっています。この小さな出来事での傍観者をなくしていくことがまずは大切なのではないでしょうか。

しかし、傍観者が傍観者である理由は「事件に巻き込まれたくない」「行動しても変わらない」という思いがあるからです。このような考えをかき消して行動しようとするには、それなりの勇気も必要ですが、具体的な行動の仕方を知ることが必要です。当事者に直接声をかけることが最も有効ですが、なかなかそれはできません。大人の人に相談するなど、方法はたくさんあります。このような行動の仕方を一人一人が考えて話し合う場を作ってはどうか。そうすれば傍観者となる人は減っていき、普段の生活から悪事を見逃さない環境になっていくと思います。この小さな積み重ねがやがて日本、世界の人々の意識を高めることにつながると思います。「行動の仕方を知り、傍観者にならずに行動を起こす。」これを一人一人が実行していくことで、事件を起こさない、見逃さない、明るい社会を築くことができると思います。

取組の課題・創意工夫 キーワード『定着』

課題 取組を実施したが、その後生徒からの発信の機会が少なく、生徒に「いじめカッコ悪い」の定着が不十分である。

創意工夫 ・授業でいじめについて扱った。・全校集会で訴えた。・生徒会交流会で他校の実践を学ぶことができた。

取組の成果（効果） キーワード『自己肯定感』

生活アンケート

項目	1 学期	2 学期	差
自分は誰に対しても相手の事を思って行動することができる	76.6%	77.5%	+0.9pt
自分にはよいところがあると思う	61.7%	62.3%	+0.6pt

生徒会本部生徒の感想

・生徒全員で真剣に考える場となり、集会を開いた生徒会本部も達成感を味わうことができた。今後も取組を続けることでいじめのない学校をめざしていきたい。

今後の展開 キーワード『機会を増やす』

- ・授業でいじめについて考える機会を増やす。
- ・いじめ防止キャンペーンを打ち出し、全校生徒がもう一度考えるきっかけを作り「いじめカッコ悪い」という風潮がスタンダードとなるようにしていく。

他校へのアドバイス キーワード『生徒発信』

- ・教員主導ではなく、生徒自身が考え、発信していくように仕掛けることでよりいじめについて考えられるようになると思います。